

# みせん

瀬戸内海国立公園  
宮島地区パーク  
ボランティアの会

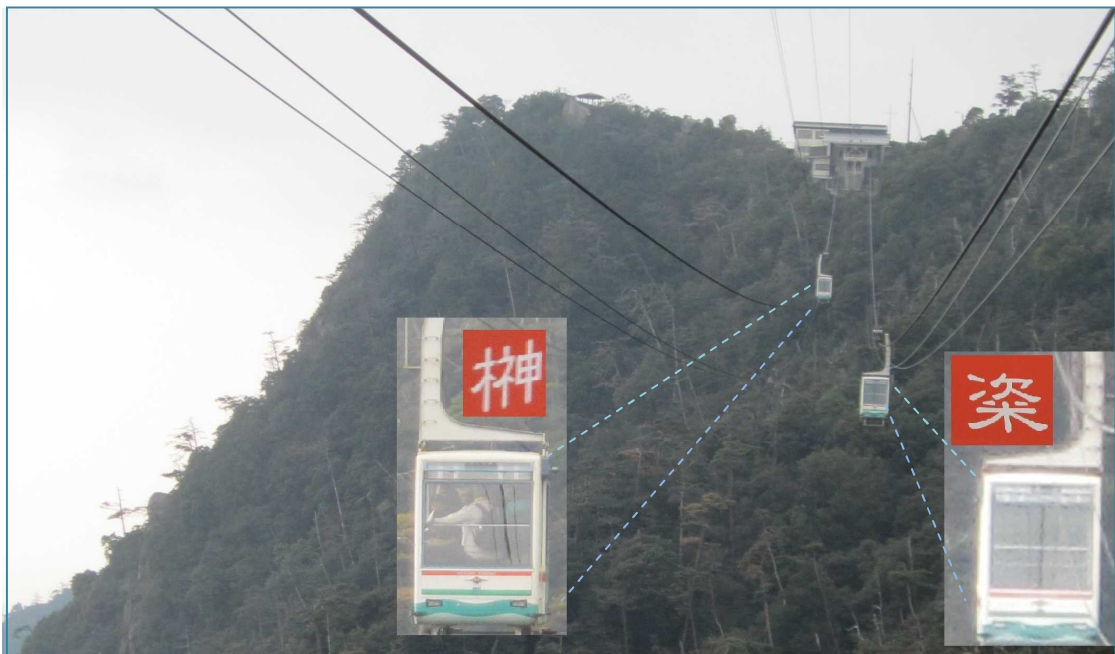
第63号

発行日  
平成28年3月1日

## ◇ 目 次 ◇

- |                             |                              |
|-----------------------------|------------------------------|
| P 2 公募観察会<br>公募観察会(11/21)下見 | P 7 環境省研修会<br>「宮島の自然と環境について」 |
| P 3 公募観察会アンケート結果            | P 8 同上続き                     |
| P 4 『宮島二流記』その20             | P 9 弥山登山道清掃作業                |
| P 5 島外研修・元宇品                | P10 新春弥山登山<br>野鳥観察(地御前)      |
| P 6 投稿 俳句<br>会員の集い・懇親会      | P11 同上続き・編集後記                |

## 榎谷駅から獅子岩駅を望む



こんにちは！榎谷中間駅から獅子岩駅まで距離約 500m、標高差約 63m を 3 分少々、僕たち兄弟(Sakaki と Shitogi)がお客様の送り迎えをしています。

空中からの展望も素晴らしいですが、獅子岩駅から徒歩 30 分、弥山展望台からの眺望はフランスのガイドブック会社ミシュランから三ツ星を頂きましたよ。

それではまたお会いしましょう。

( 文・写真： 増田 武彦 )

平成28年度PVの会・定期総会を下記の要領で開催しますので、会員の皆様、多数ご出席ください

日 時 4月2日(土)9:30~12:00  
(受付9:00~ )

場 所 杉之浦市民センター大研修室

※ 欠席の人は委任状を提出してください

※ 午後から入浜池補足調査および小なきり浜の観察会・清掃活動を実施します

## 公募観察会 自然と歴史文化探訪

日 時：11月21日(土) 9:40～14:00

天 候：晴れ

場 所：包ヶ浦～博奕尾～紅葉谷

参加者：小方(嗣) 北野 黒木 小林ペア  
坂本 佐渡 佐藤(佐) 佐藤(庸)  
末原 中道 檜和田 村上 山崎  
前田 増田 以上 16 名

環境省 武石自然保護官

公募参加者 18 名

“天気良ければ全て良し” 11月21日の公募観察会“自然と歴史文化探訪”は晴天のもとで始まりました。9時30分公募参加者18名は包ヶ浦自然公園管理センター前に全員集合。9時40分から開会式。環境省武石自然保護官と宮島地区パークボランティアの会村上会長の挨拶がありました。続いて本日の自然観察のリーダー1班北野会員、2班小方会員、3班山崎会員の紹介があり、公募参加者は6名ずつ3班に編成されました。出発前に大切なストレッチ体操、予定通り9時50分出発しました。池のシバナなどを見つつ包ヶ浦の自然歩道を散策して、博打尾を目指しました。途中シロダモの赤い実、山道の黄色く実ったトキワガキやカンザブrouノキなど珍しい植物について詳しい解説がありました。参加者の人も熱心に植物を手にとって質問をされていました。



シロダモ(メス)の赤い実

ほぼ予定通り12時過ぎに博打尾に到着、広場を選んで昼食となりました。弁当を食べ終ったところで、飛び入りの小方リーダーから“もみじ”についての勉強会。グッ



厳島合戦の紙芝居

13時から文化探訪“厳島合戦”の紙芝居、小林部会長の名調子、参加者の皆さん、熱心にきいていました。紙芝居の終わりに県立広島大学の秋山先生の話として、厳島合戦の戦闘力、陶軍と毛利軍の兵力の数等、実戦的な話がありましたので、皆さんも納得されたことでしょう。ここで記念写真撮影をしました。



博奕尾の広場で集合記念写真

13時15分下山開始、ゆっくりと下り、14時前に紅葉谷公園に到着。参加者の皆さんにアンケートを記入してもらい解散となりました。終日晴天で、楽しい一日でした。  
( 文：佐渡 正幸 写真：前田 忠瑛 )

## 公募観察会 自然と歴史文化 下見

日 時：11月14日(土) 9:30～14:00

天 候：曇りのち雨

場 所：包ヶ浦～博奕尾～紅葉谷

参加者：大西 小方(嗣) 北野 小林ペア

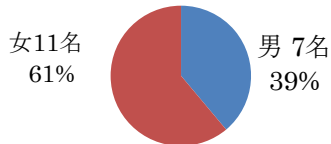
坂本 末原 野呂田 村上 山崎 横路 前田  
森 以上 13 名

栈橋詰所でまとめ、当日編成打合せの後、観察会当日の晴天を祈って14時解散した。

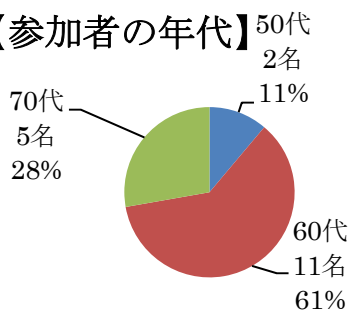
# 公募観察会アンケート結果

(参加者 大人 18 名 回答 18 名)

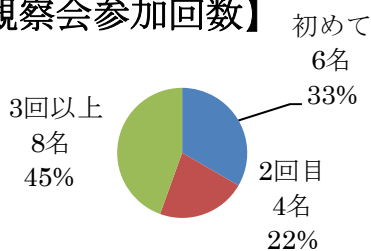
## 【参加者の性別】



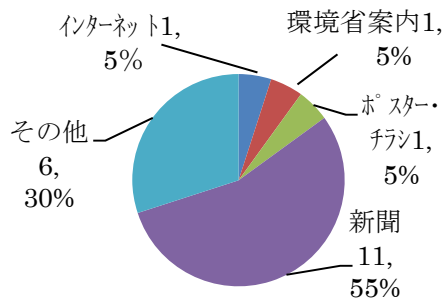
## 【参加者の年代】



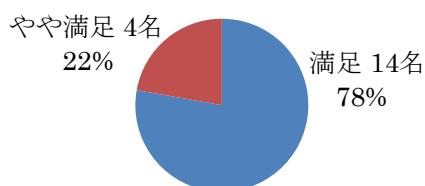
## 【観察会参加回数】



## 【行事を知ったのは】



## 【行事の感想】



## ●参加したきっかけは

50代】・宮島の自然や歴史に興味がある。

60代】・体を動かしたい。(4名)

- ・宮島が好き。
- ・宮島の知らない道や場所を覚えたい。
- ・植物・野鳥や歴史に興味がある。
- ・植物に興味がある。
- ・歴史に興味がある。

70代】・植物・野鳥や歴史に興味がある。

- ・植物・野鳥や歴史に興味がある。
- ・植物や歴史に興味がある。
- ・歴史に興味がある。
- ・歴史と、自然の美しさに引かれて。
- ・自然や歴史に接しながら体を動かしたい。

## ●観察会内容

50代】・歴史もあり、植物も詳しくて面白かったです。

- ・2時前に終了したが、もう少し歩いても良いと感じた。

60代】・沢山の木や色々な話が良かった。

- ・説明が良かった。触れて、匂いを嗅ぐのは良く分かる

- ・6人のグループだったので良かったです。

- ・次回は、前回流れた大元～広大実験所コースを実施してください。

70代】・丁寧で分かり易かった。

自然の樹木等について、随所で詳細な解説があり、大変満足のいく体験でした。

## ●講師・テキスト

50代】・楽しい話で良かった。

- ・よく事前学習されていて分かり易かった。

60代】・詳しく丁寧に教えて頂きました。

- ・良かった
- ・説明が素晴らしかった。
- ・カラーで植物がよく分かりました。
- ・案内が毎回大変素晴らしいです。
- ・良いと思います。

70代】・分かり易い。

- ・非常に良かった。

## ●その他

60代】・ありがとうございました。

- ・登山道で縦に長くなるので、後方の方は聞き取れません。

- ・説明が分かり易かったです。

70代】・後の方になると説明が聞こえ難いので、そこを何とか

- ・別の催しがあれば、是非又参加したい。

## ●ご意見、ご要望があれば記入ください

50代】・宮島の歴史ルートを案内して欲しい。

70代】・役員・引率の方々、有難うございました。

( まとめ 前田 忠瑛 )



## 『宮島二流記』 その 20

平田 広三郎

Q : 20「縄文時代 宮島には何家族住んでいたのでしょうか！」

「広島県遺跡地図 I (大竹市・廿日市市・佐伯郡)」(平成 4 年、広島県教育委員会)には宮島に 22 ケ所の遺跡があることが紹介されています。また広島大学の調査<sup>1</sup>では縄文時代の遺物も発見されています。

A : 20「北海道のアイヌの人達と同様の生活をしていたと思われます。」

縄文時代の編年は、1920 年代以降土器型式により設定されて来ましたが、1947 年自然界に存在する炭素：C14 原子が検出され(ノーベル賞)、放射性炭素年代測定(C14 法：モデル年代)が可能になりました。同法は C14 の半減期(約 5730 年)を利用し、土器に付着した木炭やスス・骨などに残っている C14 と半減期のない C12(非放射性原子)の個数の比から、その生物が何年前に死んだか(死ぬと C14 が半減期に向かって減衰)を、西暦 1950 年を起点に調べます。さらに 1970 年代に開発された加速器質量分析法(AMS)では、生物由来でなく土器内の C14 を直接数えられます。ケースによっては約 6 万年前まで測定可能です。しかし大気中 C14 は宇宙線の変動や海洋からの炭素放出などにより変動するので年代較正が必要です。そのため木の年輪年代や地層(年縞堆積物)などと突き合せ、世界共通の実年代がわかる「較正曲線」が作られています。

以上の成果を合わせた縄文時代の時代区分は、草創期(現在から約 15000~11000 年前)・早期(約 11000~7000 年前)・前期(約 7000~5500 年前)・中期(約 5500~4500 年前)・後期(4500~3300 年前)・晩期(約 3300~2800 年前)に現在は分けられています(作者設定)。

さらに深海底堆積物や氷河ボーリングなどの調査を行い研究する古気候学からは、縄文人の生活に大きな影響を与えた寒冷期(海退：陸が前進)と温暖期(海進：陸が後退)を繰り返す気候変動(ボンド・イベント)<sup>5</sup>の年代もわかってきました。

宮島の出現は、大野瀬戸の水深の浅い所を現在の海水面から -10m とすると、水深 -43m であった 11600 年前から始まる温暖化の海進により、7400 年前頃に -10m に到達、以降本土から離島したようです。従って縄文早期末までは本土と陸続きでした。

宮島では旧石器時代・縄文時代草創期の石器および早期の土器、対岸の大野では草創期の石器などが発見されており、この付近は人間の生活の場所だったようです。

一方縄文人の生活は採集猟漁でした。全国で推定される人口は、2 万人(早期)・26 万人(中期)・8 万人(晩期)で、右肩上がりでないのは人口変動が食糧確保上の気候変動に似た動きをするためです。西日本は東日本に比べて低い人口密度ですが、これは日本の植生が西は照葉樹林帯、東は落葉樹林帯ですので、主食である堅果類(クルミ、トチ、ドングリなど)の収量の差のようです<sup>3</sup>。北海道は針葉樹林帯ですので更に少ない量だと思われ、江戸時代末まで狩猟中心の生活が続きます。

さて宮島における家族数ですが、芹沢長介(東北大学：縄文考古学)氏<sup>2</sup>は、18 世紀初めの北海道のアイヌの人口は約 2.8 万人、1/5 万地図 1 枚に 100 人程度が住んでいたと推定しています。1/5 万地図「厳島」と「宮島」の面積比は 10 分の 1 弱で、人口は約 10 人程度(1~2 家族)となります。

縄文人 5 人一家族の必要な食糧は、栄養量から逆算すると主食のドングリは年約 1.3 トン(採取期間 60 日とすると 1 日約 20kg 採取)、魚は 1 日約 2kg(数匹)他は根類です。この程度あれば、宮島の 1~2 家族でもカシ系のドングリや北海道のサケに匹敵するボラ等の刺突漁(鏝を使う突き棒・弓矢の漁、鏝：やじりの出土が多い)で入手可能な量であり、生活が維持出来たでしょう。やがて弥生時代に入ると、稲作耕地のない宮島には誰も住まなくなつたと考えられます。 参考文献

- 1) 「内海文化紀要第 34~38 号」2006~2010 広島大学大学院付属内海文化研究施設
- 2) 「太陽」1963 年 11 月号(株)平凡社
- 3) 「縄文時代」小山修三 中央公論社 昭和 59 年
- 4) 「弥生時代の歴史」藤尾信一郎 講談社現代新書 2015 年 8 月
- 5) 「縄文人の生活世界」安斎正人(株)敬文社 2015 年 5 月

日本では雄花が発見されていないと言う。

## 島外研修・元宇品

### ツチトリモチと海岸の地質観察

日 時：11 月 28 日(土) 10:00～12:30

場 所：元宇品

天 候：晴れ

参加者：小方ペア 金山 川崎 北野

小林ペア 小林(寛) 末原 兎谷

野呂田 平田(攻) 檜和田 村上

柳瀬 山崎 横路 大林 前田

以上 19 名

「元宇品アースミュージアム」自然観察  
ボランティア 会員：7 名

朝、10 時に宇品灯台前広場に集合。樹齢約 300 年の楠の大木が私たちを迎えてくれた。「アースミュージアム」自然観察ボランティアの会代表の檜和田さん(PV 会員)から、発足以来 3 年目となる会の活動と地域の概要について説明を受けた後、アラカシ・コジイ・楠・ヤマモモ・タブなどの照葉樹の大木を縫うように走る車道を山頂三角点へ向かって出発した。道から少し離れた大樹の木陰の直径 40cm 以上はあろうかと思われる巨大なスズメバチの巣に驚く。自動車も時折通り過ぎる。「アースミュージアム推進委員会」としては、車両侵入禁止を望んでいたのだが・・・とのこと。アベマキの大樹や蛸の足の様に大きく枝を広げたカゴノキを見ながら「四等三角点」に到着。広場には高射砲台跡が残る。戦後しばらくは民間の寮が建っていた。傍のモチノキの赤い実が濃い緑の葉に映えて美しい。ここから、いよいよ昭和天皇も推奨されたという原生林内の散策小径に入る。450 年前から続き、原爆の被害を乗り越えた大樹が繁る林内は、落葉が重なり下草は少ない。ツチトリモチはハイノキ科の根に寄生する草本。モチノキやモッコクの大樹の間にハイノキ科のクロキが目立つ場所の斜面のいたる所に、赤い帽子の大小の人形が列を成しているが如く、落ち葉の間から顔を覗かせている。今年は例年に無く数が多いと言う。赤い卵状の部分は花の集まりの花穂。赤い粒粒の内側に黄色の沢山の雌花が有る。



ツチトリモチ

山芋の様な根茎から「鳥モチ」を作っていた。独特なその姿を間近に見られて満足な観察であった。

海岸に降りて、地質の観察路に入る。講師はユニークな帽子の満島さん。テーマは「地球の不思議を発見しよう」。

観察路の崖面に現れる地質の様々な岩石。その形成された年代や原因を金槌を片手に風化状況を音と目で確かめながらの易しく詳しい解説。

- ・元宇品山の形成は 6500 万年前(花崗岩・捕獲岩・<sup>りよくれんせき</sup>緑簾石など)
- ・火山活動やマグマの動きによるもの(岩脈・貫入・ペグマタイト)
- ・地殻の変動によるもの(断層・節理・サイコロ石)
- ・氷河期(2 万年前)以来の海面の上昇、下降によるもの(海食洞・風化など)

海の香りを足元に感じながら巡る観察路の崖面の地質の多彩な表情。これは悠久の年月を経て形成されたもの。壮大な歴史に思いをめぐらすひと時であった。宮島の海岸にも断層や巨晶ペグマタイトの地層が見られる場所が有り、興味深い地質観察であった。



海岸で地質の解説

( 6 ) ..... み せ ん .....

最後に、元宇品では珍しいと言われるキミノシロダモを案内、解説して頂き 12 時 30 分に無事に観察会を終了した。

大都市のすぐ近くでの小面積ながら凝縮されたような原生林の自然。この環境や絶滅危惧種の「ツチトリモチ」の保存と、毎月定期的に自然観察会を行なっておられるボランティアの方々の活動に強く感心した一日でした。

( 文・写真 横路 晃 )

## 投稿 俳句

### 周防大島『アサギマダラ』

秋の蝶追うて曜日のなきご仁  
花圃<sup>かほ</sup>に立つ津波到達地点の碑  
小春日や博奕尾峠の紙芝居  
松柏の隙間彩るタマミズキ  
極月の弥山<sup>もろはだ</sup>に諸肌脱ぐ男  
黒木 隆信

## 会員の集い・懇親会

平成27年12月5日(土) 「会員の集い」と「年末懇親会」が、宮島市民センターおよび山村茶屋において開催された。

会員の集い参加者： 足立 大西 小方(嗣)  
小川 恩田 川崎 河村 北野  
小林(颯) 小林(寛) 佐渡 佐藤(佐)  
佐藤(庸) 末原 田中 中道 錦織  
野呂田 平田(広) 檜和田 松尾  
松田 村上 山崎 横路 吉崎  
呼坂 麻生 猪谷 大林 前田 森  
以上32名

環境省 武石自然保護官 大高下AR

### 1. 「会員の集い」 9:15～11:40

(司会：末原副会長)

#### 1)武石自然保護官あいさつ

公募観察会に協力を頂き有難い。

皆さんの熱心な活動に感謝している。

来年は2年毎の会員登録更新の年、よろしくをお願いしたい。

#### 2)村上会長あいさつ

来年も「法令遵守」、「安全第一」をモットーに活動を行う。

公募観察会参加者の方々に満足して頂けるよう事前調査を徹底してやっていきたい。

#### 3)部会別会議

#### 4)全体会議

#### (1)観察部会活動状況報告(小林部会長)

・天候による観察会の実施(中止)基準を検討し再確認した。当日午前6時のNHKの天気予報で、降水確率が午前、午後どちらかで50%以上であれば中止とする。

・観察会のリーダーの養成を計画的に行う。  
・来年の公募観察会の候補予定地に「要害山～陸軍道路をへて包ヶ浦公園」が挙がっている。

・来年も従来通りの行事計画を組む予定である。

・来年の島外研修は、金輪島が候補に挙がっている。

#### (2)広報部会活動状況報告(平田部会長)

・研修会は7月の救急救命研修会、10月の周防大島会員交流研修会、12月の環境省主催研修会『宮島の自然と環境について』であった。

・来年は会員登録更新の年である。

・『みせん』は来年度も4回発行予定である。

#### (3)環境整備部会活動状況報告(末原部会長)

・樹木名板、高所にあるものは、手の届く位置に取替えていく。

・3月12日、雨天順延の鷹ノ巣砲台跡の整備及び清掃活動

・来年度の活動予定

① 4月自主研修、『大砂利観音地藏の探訪』を検討する。

② 7月管絃祭前の海浜清掃

③ ミヤジマトンボ生息地の整備協力

④ 12月弥山登山道の清掃

⑤ 隔年作業のコバンモチの樹木ネット保全作業を2月

⑥ 活動日を土日以外(ウィークデイ)も検討していく。



(4) 質疑等

- ・ 平日の活動も検討しては如何か。
- ・ 入浜池の土のうが、見苦しくなっていないか。
- ・ ミヤジマトンボ生息地整備は、トンボ協議会で水路の確保について検討中。また協力依頼があるかも知れない。

(5) 環境省大高下 AR より事務連絡

- ・ 来年は、会員登録更新の年、皆さんの協力をお願いします。

(6) 村上会長から

- ・ パークボランティアの主要な役目は、国立公園のメンテナンスと②国立公園の良さを発信することである。
- ・ ②の成否は、公募観察会に於けるリーダー、サブリーダーの肩に掛かっている。
- ・ 自主観察会は、リーダー、サブリーダーの能力アップも目的としている。
- ・ 周防大島会員交流研修会は大変好評であった。
- ・ 入浜池にミヤジマトンボを呼び寄せたかったが無理のようである。しかし美しい池を維持していきたい。

2. 「年末懇親会」 16 : 10 ~ 17 : 50

紅葉谷公園の「山村茶屋」で 21 人が出席して行われました。天候や気温でいまひとつだった今年の紅葉ですが、紅葉谷はこの日も観光客で溢れんばかりの賑わいでした。

先ず座敷でおでんとお酒で暖をとる会員、牡蠣焼きに専念しサービスに励む組、早速缶ビールで乾杯、今年の思い出話や情報交換を始める人達、と様々でした。



牡蠣焼きでサービス

名物のカキ、おでんやアナゴ丼の食べ放題でお腹も満足し、「広島サンフレッチェ」のリーグ優勝の期待談で盛り上がりました。用意の良い人はライトを照らしながら下山

して行きました。



おでんで暖をとり歓談

( 文・写真 前田 忠瑛 )

## 環境省研修会「宮島の自然と環境について」

日 時 : 12月5日(土) 13:00~15:50

場 所 : 宮島市民センター

参加者 : 足立 大西 小方(嗣) 小川 恩田

金山 川崎 河村 北野 黒木 小林(勗)

小林(寛) 佐渡 佐藤(佐) 佐藤(庸) 島

末原 田中 中道 錦織 野呂田 平田(攻)

平野 檜和田 松尾 松田 村上 山崎

山本(昌) 横路 吉崎 呼坂 麻生 猪谷

大林 前田 森 以上37名

環境省 関自然保護官 武石自然保護官  
大高下AR

### 1. 環境省 武石自然保護官より情報提供 外来生物に関する施策等について

- ・ 外来生物には、意図的に移入された生物と非意図的に移入された生物がある。
- ・ 意図的に移入された理由として、駆除あるいは抑制したい在来生物に対する天敵の役割を期待したり、釣りの対象としたり、緑化を推進するため、などがあつた。
- ・ 非意図的に移入されたケースとしては、貨物に混入などである。
- ・ 問題となった外来生物の代表例としてフイリマングースがある。これはネズミや毒ヘビ駆除という目的で移入されたが、それらを捕食するのは稀で、もっぱら他の地域固有動物の捕食をはじめとし、生態系に各種の甚大な被害を発生させたため、対策として大掛かりな駆除事業が必要となった。
- ・ このような深刻な事態を受けて、今後の

新たな外来生物導入の可能性に対し、外来生物法が平成 17 年 6 月 1 日施行された。

・外来生物法の目的

この法律の目的は、特定外来生物による生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止し、生物の多様性の確保、人の生命・身体の保護、農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することである。

・外来生物被害防止三原則

「入れない、捨てない、拡げない」の三原則の徹底で、外来生物被害の低減、根絶、未然防止を実現させなければならない。

.....

・続いて、外来生物、ツマアカスズメバチについて大高下 AR および松田会員から説明を頂いた。

( 文： 前田 忠瑛 )

## 2. 講演「宮島の自然と環境について」

講師：元広島大学附属宮島自然植物実験所  
技術専門職員 向井 誠二 氏

講演のために膨大な資料を準備頂いた。街並み、小学校、運動会、渡船場、映画館など昭和期の町民生活の様子を伝える写真から、松くい虫被害対策の頃、また樹木、草、花、実などを中心とした自然の写真にいたるまで、次々と映しだし、説明を加えられた。また、宮島の風化し易く浸食・洗掘を受け易い花崗岩質の地質と、白糸川の土石流災害事例についても触れられた。

多くの人達が宮島を訪れ、厳島神社などの文化遺産を巡り、貴重な弥山原生林とその背後に続く自然豊かな山容を楽しみ、感動して帰って行かれる。この良き自然環境を護る活動に、パークボランティアとして参加する我々にとって、貴重な内容の講演でした。

### 講演要旨『自然と環境について』

#### ○宮島の植物

- ・海中から山頂まで自然が保たれている。
- ・南方系植物と北方系植物が混在している。  
発見された維管束植物は723種である。
- ・固有種は無い。

#### ○宮島の森林群落

- ・アカマツの二次林が大半を占めているが、極相林や植林もある。

#### ○宮島の植物相の特色

- ・宮島の植物相は、温暖帯の要素が主体で、北限に近い南方系要素としてコバンモチ、ミミズバイなど多数ある。
- ・中間帯から冷温帯（一部亜寒帯）にまで分布する要素として、コウヤマキ、モミ、ツガなどがある。
- ・宮島と本土とは僅か500mの距離だが、アカマツ二次林の内容には違いがある。  
宮島は来島者が多いが、植生に与える影響は、森林を里山化させる方向には作用していない。

#### ○海岸の植物

- ・宮島は海藻の種数と量は少ない。
- ・海中には海藻とアマモ、コアマモなど海産単子葉類の群落がある。
- ・海浜には塩生植物群落が形成されている。  
ハマゴウ、イワタイゲキ、シバナなど。
- ・山側～小流の流れ込む所には、ヒトモトススキの小群落を形成することが多い。

#### ○宮島に見られる貴重植物

- ・宮島には多いが、本土や他の島では無いか極めて稀な植物として、イヌガシ、イワタイゲキ、カギカズラ、カンコノキ、・・・ミミズバイなどがある。

#### ○宮島の松枯の原因と対策

- ・松枯れ被害は、1962～65頃から出始めた原因は大気中の高い亜硫酸ガス濃度で弱ったマツに病害虫が発生し、侵食したためと推定される。
- ・病害虫駆除剤の空中散布が、1973年6月ヘリ機により実施された。（地上散布はハシゴ車、動力噴霧器）
- ・松くい虫（マツノザイセンチュウ）対策搬出作業を1973年5月頃から2年間実施した。宮島全島の4分の1に当たる830haで10万本の松を伐採した。
- ・抵抗性マツを作った。  
実験所内の抵抗性マツのアカマツ54号より種子を採取し「広島スーパーマツ54号」。

#### ○海岸植物群系

- ・海中植物群系、アマモ、コアマモ
- ・海浜植物群系、ハマゴウ、イワタイゲキ
- ・湿地植物群系、ヒトモトススキ、シバナ

#### ○宮島を代表する植物、ヤブツバキ

常緑樹、照葉樹林の代表的樹木、アセビ



- 宮島におけるツツジ科の植物、コバノミツバツツジ、ヤマツツジ、ヒメヤマツツジ、バイカツツジ
- コバンモチの保護を続けている。
- ハイノキ科の植物が多い。シロバイ等
- シバナなど島内では絶滅したかと思っていたものが見つかることがある。

#### 植物の標本整理について

説明の傍ら、多数の植物標本を回覧し見せて頂いた。自然植物実験所には、古くは明治時代のものから総数 40 万点の標本があり、定年退職後、ボランティアで標本整理を行って来られたとのこと。標本整理は少なくとも 1 点に 2 週間を要し、5 年間で終えたのは 11 万点だそうである。



向井氏の講演に聴き入る会員

( 文：前田 忠瑛 写真：大高下 AR 提供 )

## 弥山登山道清掃作業

日 時：12月12日(土) 9:00～15:30

場 所：宮島ロープウェイ獅子岩駅～弥山  
山頂～仁王門～大聖院ルート

天 候：晴れ

参加者：大西 小方(嗣) 川崎 黒木  
小林ペア 佐藤(佐) 末原 兎谷 村上  
山崎 前田 増田 森 以上 14 名

環境省 大高下 AR

恒例の弥山登山道補修および清掃活動は、例年なら、凍結の心配をしていたのが嘘のような暖かさ。今年もロープウェイ獅子岩駅から 2 班に分かれて作業を開始しました。

荒れた天候の後で、水路の土砂や落ち葉も多く、何事にも手を抜かない皆さんにはかなりの重労働でしたが、「ごくろうさま」「ありがとうございます」の声をたくさん

頂き、すがすがしい気持ちで作業。頂上からの見晴らしを楽しみながら昼食をしていたら、弁当と思われるビニール袋をつかんで飛び上がるカラス。神鳥だから仕方ないかと思いましたが、よく観察しているなど感心。今回の参加者は 15 名でやや少なめ。体力的に厳しくなった方でも気楽に参加できる方法が有ればと思いました。



スコップ、熊手、ホウキの連携で  
きめ細かな清掃作業



池状態の道に水路を確保し流れをつくる作業に汗を流す黒木会員、現場は大聖院コースの 2 号堰堤です

村上会長より、今年 1 年間の無事故・無違反での活動のお礼と来年の協力要請で締めくくりました。

また、環境省の大高下 AR さんより特定外来生物 カナダガンの目撃情報提供のお願いがありました。

( 文：佐藤 佐十四 )

( 写真：前田 忠瑛、 増田 武彦 )

## 新春弥山登山

日 時：1月16日(土) 9:00～15:00

天 候：快晴

コース：上り 紅葉谷、下り 大聖院

参加者：岩崎 小方(嗣) 北野 黒木 小林(勲)  
佐渡 佐藤(佐) 末原 兎谷 野呂田  
平田(攻) 村上 横路 吉崎 麻生  
猪谷 前田 増田 森 以上 19 名

今年は暖冬といわれ、暖かく心地よい朝に慣れていましたが、本日は一転し、今冬 1、2 番の冷え込み。住宅地の空地や畑地は一面に霜に覆われましたが、弥山の山頂は快晴と素晴らしい眺望が期待されます。

9 時、宮島栈橋 2F ロビーに集合。それぞれ新年の互礼のあと、部会長、会長から新年の挨拶「今年も安全第一で！」。

まずは海岸通りから「厳島神社」へ。今年は厳島神社の世界遺産登録 20 年、これを記念して、朱の大鳥居をバックに集合写真。

紅葉谷公園バス停であらためて服装と持ち物を整え登山口へ。9 時 40 分出発。

7 号堰堤付近に群生するヤブツバキ。一昨年、昨年に続いて今年も花が少ないようです。心なしか樹木の繁りも疎になったように感じられます。

岩海を通り抜け、長い石段を登り「天然橋」を渡り急坂を進むと、標高 320～380m のミミズバイ自生限界です。ここで例年の通り、地球温暖化の指標として南方系植物ミミズバイの生育状況を定点観察しました。測定データを文末に示します。興味ある方は昨年のデータ(みせん No.59)と比較してみてください。

11 時丁度、先頭グループが霊火堂前広場に到着。当会会員が思いを込めて手当てしている弥山本堂横の「錫杖の梅」は年々勢いを取り戻し、しっかりと蕾を付けています。なお心待ちしていた、鏡餅割りは残念ながら 1 週間前だったとのことです。ここからまた石段を登り、右手の「三鬼さん」にじっくりと安全祈願をしたのち、うわさの「くぐり岩」を抜けると山頂広場です。

11 時半山頂到着。今年も多くは参詣客や登山の人たちで賑わっています。岩陰には霜柱がまだ残っていますが、展望台からは朝の霜

が予告したように、見事に晴れわたった瀬戸内の島々と、これまで展望台近くにあった有線放送のアンテナが移設され遮るもののない 360 度の景観を満喫しました。

これまでのシカに加え、今年は新たに弁当を狙って梢から飛翔してくるカラスにも警戒しながら、山頂岩や展望台で三々五々昼食し、展望台をバックに新春登山集合写真に納まりました。

12 時半下山開始。下りは石段続きの大聖院コースです。足元に注意しながら予定通り無事に大聖院山門に到着。14 時過ぎ解散。

お疲れさまでした。



新春弥山登山 記念集合写真

### 【ミミズバイ】(測定 岩崎)

番号	標高(m)	樹高(cm)	幹周り(cm)
①	395	86	4.4
②	380	68	3.3
③	樹木発見できず、不明		
④	350	192	6.5
⑤	320	160	6.3
標高は地図の等高線をもとに修正した値			

【くぐり岩の間隔】190.5cm (測定 岩崎)

(文：村上 光春 写真：横路 晃)

## 野鳥観察(地御前)

日 時：2月6日(土) 9:00～12:00

天 候：晴れ 満潮：8:36

コース：地御前神社～港～御手洗川河口

参加者：足立 岩崎 大西 小方ペア 小川  
川崎 小林(勲) 佐藤(庸) 北野 末原 兎谷  
吉崎 中道 野呂田 檜和田 呼坂 横路 大林  
前田 増田 山本(章) 以上 22 名

日本野鳥の会 太田さん



今年も地御前神社前に大勢の会員が集合しました。小林(勅)部会長挨拶に続き、講師役の大西会員から、今日支援を頂く野鳥の会広島県支部の太田さんの紹介がありました。

次に大きな写真パネルを用いて、潜るカモと潜らないカモの特徴の説明が始まりました。

神社周辺の樹木では、メジロやヒヨドリ、キジバトが蜜を吸ったり脂質がたっぷり詰まった実を食べたりしながら盛んに動き回っています。

道路を渡った港では、日本を代表するカモで、広島県で1番多いヒドリガモ、同じく日本を代表するカモで関東に多いマガモ、オカヨシガモ、ナポレオン帽をかぶったようなヨシガモなどが群れを作っています。岸壁の上には3種のサギが並んでいます。黄色い嘴のダイサギ、サギの中で1番大きいアオサギ、コサギは1番沢山います。オオバンやカンムリカイツブリは、カモの仲間ではありませんがよく潜るそうです。



カンムリカイツブリ

樹木や電線にはジョウビタキ、ツグミ、ムクドリが止まっています。捨てられた牡蠣殻の山には、ユリカモメ

が群れています。白いけれど食性がカラスと一緒にごみ処理をするそうです。セグロカモメは黄色い嘴に赤いワンポイントが、望遠鏡で見るとはっきり分かります。

飛び方に特徴のあるセキレイの仲間、ハクセキレイと日本固有種のセグロセキレイを見ている時、大西会員が望遠鏡でチョウゲンボウのメスを見つけました。昨年のスペシャルはギンムクドリでしたが、今年はハヤブサの仲間のチョウゲンボウです。



ホシゴイ

調整池ではコガモやカルガモそしてホシゴイ(ゴイサギの若鳥)が、葦の繁みに2羽、同化しているように

じっとしています。

この御手洗川河口に広がる海では、ホシハ

シロ、キンクロハジロ、スズガモなど潜るカモが、ずんぐりとした姿で浮かんでいます。白と黒ですっきりしたデザインで長い尾羽のオナガガモがアオサを食べていたり、シロチドリ(シロチドリ)の群れ、その他沢山の鳥の群れが砂浜に集まっていたりします。カキ簀に宝石と例えられるカワセミが止まっているのを太田さんが見つけました。カワセミが何度も海に飛び込んでは羽繕いする姿をじっくり観察できたのは初めてで、今年のスペシャルにこのカワセミも入りました。

曇って寒くなりだしたところ終点の御手洗川河口に到着しました。色々な鳥を観察でき豊かな海が実感できました。大西会員、太田さんの優しく楽しい説明のお陰で、実りある観察会になりました。下見と準備を重ね、私たちのために走り回って絶好のスポットを捉えてくださったお二人にお礼を申し上げます。

この日出会えた鳥は、上記の他カイツブリ、カワウ、イソシギ、ハシブトガラス、ミサゴ、トビ、ハシボソガラス、イソヒヨドリ、スズメ、ウグイスもあり合計39種でした。



シロチドリ

( 文:野呂田 恵子 写真:大西 順子 )

#### ◇ 編集後記 ◇

本誌編集について皆様のご協力とご指導を頂き感謝致します。ささやかな事でも感動的な体験や新しいアイディアがあればお知らせください。( 前田 )

#### 瀬戸内海国立公園 宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方  
環境事務所 広島事務所  
(〒730-0012)  
広島市中区八丁堀6番30号  
広島合同庁舎3号館1階  
TEL082-223-7450、FAX082-211-0455